

Title	インドネシア語における移動の終点と前置詞di/ke
Author(s)	松野, 明久
Citation	大阪外国語大学学報. 70(1) p.31-p.40
Issue Date	1985-11-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/81060
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

インドネシア語における移動の 終点と前置詞 di/ke

松 野 明 久

The goal and prepositions di/ke in Bahasa Indonesia

Akihisa MATSUNO

The purpose of this paper is to make explicit the difference of meaning between the two prepositions di/ke when used with some verbs of transportation. Based on its basic distinction of location/direction, combination with the verbs of transportation brings a very delicate difference of meaning. When di is used, the goal may be perceived as a place with a certain space to do a thing inside, on the other hand, when ke is used, it may be perceived as an object to move toward, thus without space. The former focuses on the goal itself as a place, smoothly linking the listener's attention to the next event in a series of sequences, and the latter on the process of transportation binding the listener's attention to it.

1. 問 題

インドネシア語において, datang (来る), pulang (帰る), singgah (立ち寄る) などの移行動詞がくる場合, その移行の終点は, di, ke, pada, kepada といった前置詞をとる. このうち pada と kepada は, 以下の例文のように, 終点が人間や物事である場合に用いられるようであり, その場合の移行動詞は具体的な空間移動を意味しておらず, 心理的移動, またはある状態への移行を意味している.

1. Dan bila kelak datang waktunya, kembalilah pada dia dan anak-anakmu. (GHM, 70)¹⁾

そしていつかその時が来たら, 彼女と子供たちのもとへお帰りなさい.

2. Hanya orang-orang kaya saja suka pergi pada polisi, Tuan muda. (ASB, 16)
警察に行きたがるのはお金持ちだけです, お坊ちゃま.

3. Seorang dari gadis-gadis itu datang kepadanya, dan mengajaknya berjalan. (JAT, 17)
その少女たちのうちの一人が彼の所へやって来て、歩きましょうと誘った。
4. Ia mempersilahkan mereka kembali pada urusannya masing-masing. (STN, 74)
彼は皆にそれぞれの仕事に戻るように言った。

したがって問題となるのは di/ke の区別である。この2つの前置詞は一見交替可能なように思われるのだが、次のような場合には ke をとることができない。

5. Selamat datang di Indonesia.
インドネシアへようこそ。

やはり di/ke は区別されて用いられていると言うべきであろう。以下に現代小説の中から問題となる用法を集めてみた。

- 6a. Abdurahman mengambil keputusan, akan datang saja di kantor, sambil jalan-jalan. (KH, 38)
アブドゥラフマンは散歩がてら役所を訪れてみようかと決心した。
- b. Katanya ia ingin datang ke tempatku sekarang juga, ia kesepian, dan ia sedang cuti panjang tiga hari. (GHM, 9)
彼は今すぐにも私の所に来たいと言うの。淋しいんですって。それに三日間のお休みをもらっているらしいの。
- 7a. Kakak tidak malu menggonceng aku, kalau ketemu kawan-kawan? Atau, kalau ibu katak sudah kembali di bungalo? (DST, 94)
兄さんあたしと二人乗りして、友だちに会ったりしたら恥ずかしい。あるいは、兄さんのお母さんがすでにバンガローに戻っていたりしたら。
- b. Sejak ia kembali ke Tokyo dua kali sehari ia menilpon ke Atami. (GHM, 72)
彼は東京へ戻ってから一日に二回熱海へ電話してくるの。
- 8a. Mereka hendak masuk kerja, dan singgah setiap pagi di sana minum secangkir kopi dan makan sepotong-dua potong goreng pisang. (JAT, 8)
彼らは仕事にでかける前に、毎朝そこに立ち寄ってコーヒーを一杯と揚げバナナを一、二個食べた。
- b. Juga aku mengerti mengapa tak ada orang mengajak aku singgah ke rumahnya.

(ASB, 90)

また、ぼくは何故彼の家へぼくを誘って立ち寄ろうという人がいないのかもわかった。

- 9a. Ke kantor, ke pabrik, ke perusahaan, dan malam hari pulang letih layu di kamar masing-masing menunggu hari besok yang sama. (GHM, 181)

役所や工場、会社へと行き、夜には疲れ果ててそれぞれの部屋に帰り、明日という同じ日を待つ。

- b. Orang-orang dewasa pulang ke rumah masing-masing, diikuti bayang-bayangnya yang panjang. (HH, 59)

大人たちは、長い影をひきずりながら、それぞれの家へと帰っていった。

- 10a. Setengah jam lagi atau begitulah, kereta api sampai di tempat tujuan. (HH, 45)

それから30分かそこらで汽車は目的地に着いた。

- b. Kemarin senja aku sampai ke Solo, ngebut segerombolan dari Surabaya. (DST, 73)

スラバヤから仲間と共に車を飛ばして、昨日の夕方ソロに着いたんだ。

これらの文において、di または ke が選択されたのには、それなりの理由があろうが、そのすべての場合が必ずその前置詞でなければならないというように排他的に選択されているわけではない。di でも ke でもよい文は決して少なくないからである。つまり、di と ke の区別は非常に微妙であって、話者もほとんど自覚的にとらえていない。かつてこのことが論じられたこともないようである。小論はこの2つの前置詞の使用がもたらす意味の差異を明らかにすることを目的としている。

2. di/ke の基本的意味と使用制限

基本的には、di は「場所」、ke は「方向」をあらわし、それぞれ、「～で、に」「～へ、に」と訳することができる。それは次のような文に端的にあらわれている。

11. Saya pergi ke Kyoto.

私は京都へ行く。

12. Saya tinggal di Osaka.

私は大阪に住んでいる。

注意したいのは、11. において Kyoto は移動の終点なのに di をとれないということである。つまり、pergi (行く) の場合、datang (来る)、pulang (帰る)、kembali (戻る) などと違って di は使

えない。一方, ke の使えない移行動詞に tiba (着く) がある。

13. Waktu tiba di rumah, ia disambut dengan pertanyaan-pertanyaan isterinya. (KH, 39)
家に着いた時, 彼は妻の質問ぜめにあった。

また, ke は人間をとる場合がある。

14. Terbanglah dia kembali ke kawan-kawannya yang lain, ikut ke sana ke mari, simpang siur di udara. (MM, 51)
彼(鳥)は飛び, 仲間の方へと戻って行き, あちこちらと行ったり来たりした。
15. Satu-satunya jalan ialah pergi ke Bi Tini lagi. (KH, 42)
唯一の解決策はティニお婆さんの所へまた行くことだった。
16. Sebelum ke sini, dia menilpon aku mengatakan akan pergi ke seorang teman dari Indonesia, dan kelak aku akan ditilponnya. (GHM, 202)
ここへ来る前に彼は電話をかけてきて, インドネシア人の友達 of 所へ行くけど, また後でわたしに電話をかけるって言ったの。

つまり人間が移動の終点の場合, 前置詞は ke か pada (ないしは kepada) のいずれかになる。この区別は小論の目的ではないので深く立ち入らないが, 簡単に言っておくと, 人間の場合, ke をあえて使えば, それが具体的な空間移動の目的地(物)というニュアンスをおびる。一方 pada は, すでに述べたように, 「その人間に心理的に接近する」「頼る」という意味をあらわす。(例文1～4を参照)

ここで問題となる点は, いずれにせよ人間が終点となる場合, di はとれないということである。

- 17a. datang ke orangtua²⁹
b. *datang di orangtua
両親の所へ行く

また, di は arah (方向) という語をとれない。

- 18a. datang ke arah saya
b. *datang di arah saya
私の方向へ来る

以上第一節でふれたことも含め, di/ke の使用に関する制限を整理してみると次のようになる。

1. Selamat datang di Indonesia. (ようこそインドネシアへ) では ke を用いることができない。
2. pergi (行く) は di を, tiba (着く) は ke をとることができない。
3. di は人間をあらわす語をとることができない。
4. di は arah (方向) という語をとることができない。

3. di/ke の意味

移行動詞の後に来る di/ke の区別も, 基本的な di/ke の区別の延長線上にあると考えることができる。すなわち, 場所／方向の区別である。問題は移行動詞の後には終点をあらわす名詞が来て, それは「方向」であるはずのところに, 「場所」をあらわす前置詞が来ているということにある。その場合, 移行動詞の後に来る名詞は, それが移行動詞のあとに来るということによって終点であり, 移動の「方向」には違いないが, di の存在によって「場所」, すなわち, ある一定の広がりをもち, そこで何事かを行なう「場所」という含みをもつようになるのである。一方, ke を用いた場合, それとは対照的に終点は広がりをもたない「物」であって, したがってそれは移動の目標, すなわち「方向」にしかなりえないのである。また, 一連の継起する出来事において, 前者は移動後(すなわち終点到着後)の行為, 出来事の描写へと聞き手の関心をスムーズに連絡する役割を果たすのに対し, 後者はむしろ移動の過程そのものに聞き手の関心を留めておく役割を果たす。di は移動の終着点を問題とし, ke は移動過程を問題とする。Selamat datang. が di でなければならないのは, 迎える者も迎えられる者も共に移動の終点におり, したがってそこは広がりをもった「場所」であり, 移動の過程はどうであれ, それから後の行為へと関心が向いているからである。ここで無事 (selamat) だと言っているのは, 到着した時点のことであって, 移動の途中のことではない。pergi (行く) が di をとれないのは, それが「起点から離れて行く」ことの意味でありまったく終点到着後の出来事に関心をもてないためであり, tiba (着く) が ke をとれないのは, 逆に移動過程に関心がないからであろう。また di が人間や arah (方向) といった語をとれないというのは, それらが「そこで何事かを行なう場所」とは普通考えられないからであろう。

移行動詞の後の di/ke の区別は, やはり文脈が決定すると言わざるをえない。したがって, そのような文脈をつくって, 一方の前置詞が排除されるかどうかを見ればよい。

まず, 移動過程に関心が留まるような文脈において di が排除されるかどうか。

19a. Dia datang terhuyung-huyung ke sini.

b. ??Dia datang terhuyung-huyung di sini.

彼はフラフラしながらここへ来た。

20a. Saya datang ke hotel itu melewati Jl. Sudirman.

b. ??Saya datang di hotel itu melewati Jl. Sudirman.

私はスディルマン通りを通してそのホテルに来た。

21a. Untuk datang ke sini saya pakai sepeda saja.

b. ??Untuk datang di sini saya pakai sepeda saja.

ここへ来るのに私は自転車を使った。

「フラフラしながら」「スディルマン通りを通して」「自転車を使った」といった移動過程に聞き手の関心が留まるような文脈においては di は排除された。

次に終点到着後の出来事に関心が留まるような文脈において ke が排除されるかどうか。

22a. Sore itu saya datang di rumahnya, tapi tidak jadi mengetuk pintu rumahnya, dan pulang.

b. ??Sore itu saya datang ke rumahnya, tapi tidak jadi mengetuk pintu rumahnya, dan pulang.

その日の夕方私は彼の家へ行ったが、家のドアを叩きもせず、帰った。

23a. Ketika aku pulang, kutemukan seorang tamu datang di rumah, sedang bercakap-cakap dengan ayahku.

b. ??Ketika aku pulang, kutemukan seorang tamu datang ke rumah, sedang bercakap-cakap dengan ayahku.

ぼくは家へ帰った時、客が一人来ていて、父と雑談しているのを見た。

「家のドアを叩きもせず、帰った」「来て父と雑談していた」といった、終点到着後の出来事に関心が留まるような文脈においては ke は排除された。

以上の例文によって、少なくとも datang（来る）については、di/ke の区別に関する本稿の仮説が検証できたと思う。

4. 例文の考察

さて、di/ke の区別がもたらす意味の違いが文学作品においてどのように用いられているのか、その選択の必然性や効果について考察しておくことは重要であろう。

まず次の一節を見てみよう。これは、ラマダン作「人生の危機 (Kemelut Hidup)」の中の一場面、娘が売春をやって警察に捕えられたと聞いて駆け付けた父に対して、娘が何も答えないので、見かねた警官がその娘を説教するところである。

“Ya, sesudah begini, sesudah ayahmu sendiri datang di rumah itu, menyaksikan sendiri Sus ada di sana, menyaksikan perbuatan begitu, apa yang akan kamu lakukan? Saya sudah menasehtkan, jauhi tempat itu! Jangan datang lagi di sana. Baru tadi pagi saya berkata begitu, menasihatiimu begitu, sekarang kamu sudah kedapatan lagi ada di sana.” (KH, 17)

「そうだ、こうなってしまった後、君のお父さん自らがその家へ行って、スス（娘の名前）がそこにいるのを見て、そうやってるところを見てしまった今、君はどうするつもりなんだ。あそこへは近寄るなと注意しといただろ。もうあそこへは行くなよ。今朝そう言って注意したばかりなのに、また今こうしてあそこにいるところを見つけられるなんて。」

最初の下線部で *di* が使われているのは、そのうしろに到着後終点で起こる出来事の描写が続いているからである。第二の下線部で *di* が使われているのは、この場合の「行く」が「そこへ行って売春をはたらく」という含みをもち、終点到着後の行為の方をむしろ問題としているからである。この文だけを取り出してみれば *di* でも *ke* でもよさそうに思われるが、文脈を考えればやはり *di* が選択されるべきだといえよう。

また *ke* が使われている場合を見てみよう。次は同じ作品からの一節で、娘が警察に補導されたことで、警察に勤める親類から呼出の電話を受ける場面である。

“Jadi apa yang mesti saya lakukan sekarang?” tanya Abdurahman.

“Sebaiknya…apakah Akang bisa datang sebentar ke kantor saya? Barangkali akan lebin jelas persoalannya. Dan barangkali kita akan bisa mengaturnya bersama di sini.” (KH, 11)

「それで私はこれから何をすればいいんだ」アブドゥラフマンは聞いた。

「できれば、…兄さんちょっと署へ来れますか。問題がよりはっきりするでしょう。それにわれわれが一緒になってことを解決できることでしょう。」

下線部の含みは「来る時間はあるか」「来る気があるか」ということであるから、*datang*（来る）は起点を離れてどこかへ行くことを意味している。そして、*datang*（来る）にかかる *sementara*（ちょっと）はその移動全体に要する時間が少ないことを意味している。もしここで *di* を使えば、*datang* が「到着」というニュアンスをおび、したがって「到着」が可能かどうかを問うことになって、文脈と合わない。

それでは、小論の最初の部分にあげた例文 6a. の場合はどうか.

6a. Abdurahman mengambil keputusan, akan datang saja di kantor, sambil jalan-jalan.
(KH, 38)

アブドゥラフマンは散歩がてら役所へ行ってみようと決心した.

定年で退職した主人公は、それとなく散歩をよそおって役所に寄り、再就職を世話してくれそうなかつての部下に会おうと決心したのである. この場合の datang (本来は「来る」であるが、訳文では「行く」) は「顔を出す」「現われる」の意味であり、起点を離れることや途中のことは問題になっていない. 主人公の頭の中にあるのは、「到着」、すなわちそのことによって再就職の件についてかつての部下が返事をしなければならなくなるような、そういう「到着」「出現」のはずである. ここで、それなら sambil jalan-jalan (散歩がてら) という句は移動過程に関する修飾句ではないのか、という問いが出されるかもしれない. しかしそれは違う. 「散歩」とは家を出て役所に寄りまた家に戻って来るまでの全過程をさしており、datang が散歩の一部であるはずである. 主人公は、役所への「到着」「出現」が散歩の途中であるかのようにしようという訳である. この文を原文に近いかたちで訳すと、「アブドゥラフマンは決心した、役所に行ってみよう、散歩がてら」となり、「散歩がてら」の部分が後から思いついてつけ足したかのように書かれている. これは到着時の言訳を考えついたのであって、移動の方法や様態を考えたのではない.

次にあげる例はアフブ・ジュナイディ作「よく茂ったジャンプの木 (Pohon Jambu Yang Rimbun)」という短篇に出てくる、子供時代のあるエピソードを描いた一節である.

Sulitnya, di mana-mana binatang itu dijual, tidak bisa ditangkap di sembarang tempat. Masalah ini secara tidak sengaja dapat diatasi, lewat cara yang hanya bisa dimaafkan untuk dunia anak-anak. Di bulan dan hari yang aku lupa persisnya, Presiden Republik Indonesia Bung Karno datang ke Solo dan singgah di balai kota.

Kawanku Basid, putera sep ayahku, menyeretku ke balai kota, yang menjadi terang benderang. Di mana presiden? ...Di tengah kesibukan itulah muncul seekor kucing yang jelita, mengeong rintih, berbulu warna tiga. (HH, 40-41)

困ったことに、動物というのはどこへ行っても売り物であってそこら辺で捕えるという訳にはいかなかった. この問題は、子供の世界でしか許されないようなやり方で、偶然にも克服することができた. いつのことだったかははっきりとは覚えていないけれど、インドネシア共和国大統領ブン・カルノがソロへ来て、公会堂に立ち寄ったことがあった.

ぼくの友だちで、父さんの上司の子であるバシッドは光輝く公会堂へとぼくを引っぱって行った. 大統領はどこ. ...一匹の三毛猫があらわれ、困ったような泣き声をあげたのは、そ

のような忙しさの中でだった。

最初のパラグラフの最後の文は、次に作者が語ろうとする、少年時代のエピソードの場所へと読者を導く役割がある。文はスカルノがソロ（中ジャワの都市）へ来て (datang ke), 公会堂に立ち寄ったこと (singgah di) を伝えるが、エピソードは公会堂で起きるのであるから、前置詞 di はソロにはつかず、公会堂 (balai kota) につかなければならなかったのである。

最後にナシャ・ジャミン作「生きるための情熱，死ぬための情熱 (Gairah untuk Hidup dan untuk Mati)」から取った例文 9a. を文脈とともに見てみよう。

Sering aku bertanya-tanya dalam hati, bisakah manusia mempertahankan kemurnian hati dan jiwanya? Terutama, perempuan sebagai aku, sendiri dan berdiri di atas kaki sendiri di alam kota besar? Di mana setiap orang hidup sebagai salah satu bagian mesin untuk terus menjalankan mesin besar industri? Ke kantor, ke padrik, ke perusahaan, dan malam hari pulang letih layu di kamar masing-masing menunggu hari besok yang sama? (GHM, 181)

私は幾度も心の中で聞いた。人間は心と精神の純粋さを保つことができるのだろうか。とりわけ、私みたいにひとりぼっちで大都会で一人立ちしている女は。すべての人が工業用の大きな機械を動かすための機械の一部品となって働いている都会。役所へ行き、工場へ行き、会社へ行き、そして夜になってそれぞれの部屋に疲れて帰り、明日という同じ日を待つ。

ここで使われている di は文法的には ke と交替可能であるが、その場合意味が違ってしまふ。di の場合、部屋に帰ってきた時に疲れていることをあらわしている。読者の視点を「部屋」において、そこへ帰ってきた人の疲れきった様子を見させるという、叙述上の効果を狙っている。一方、仮に ke を用いると、疲れきっているのは「部屋」に着く前ということになり、「疲れた様子で帰った」という意味になるだろう。また、「明日という同じ日を待つ」という到着後の行為の描写があることから、やはり di でなければならないと言える。

注

- 1) カッコ内の略記号は作品を、数字はその頁をあらわす。作品と略記号一覧は巻末を参照。
- 2) 自作の例文については、本学客員教授アイブ・ロシディ氏にその適格性を判断していただいた。記して感謝の意を表したい。

作品と略記号一覧（カッコ内は初版の年）

ASB Pramoedya Ananta Toer: *Anak Semua Bangsa*. Hasta Mitra, 1980

DST Nasjah Djamin: *Dan Senja pun Turun*. Penerbit Sinar Harapan, 1981

- GHM Nasjah Djamin : *Gairah untuk Hidup dan untuk Mati*. Pustaka Jaya, 1976 (1968)
- HH H. Hahbub Djunaidi : *Dari Hari ke Hari*. Pustaka Jaya, 1975
- JAT Mochtar Lubis : *Jalan Tak Ada Ujung*. Pustaka Jaya, 1971 (1952)
- KH Ramadhan K. H. : *Kemelut Hidup*. Pustaka Jaya, 1977
- MM Iwan Simatupang : *Merahnya Merah*. Gunung Agung, 1981 (1968)